

自然遊学館 だより

2003 AUTUMN (No.29)

2003.10.2

「近木川河口クリーンキャンペーン」

日時：2003年7月12日(土) 10:00～11:00

場所：近木川永久橋下河原

毎年、大阪府と一緒に近木川の清掃活動をしています。永久橋下は土砂が高くなり、河原は荒地のようになっています。西小の「なんでもやってみ隊」は9時から集まり、清掃前に河原でいきもの観察をしました。ヨシ原でカニつり、バッタさがし。荒地化したところではヨシが減り、カナムグラ、アレチウリ、クズなどがはびこっているの、草ぬきをしました。当日、確認された動植物は次の通りです。

植物：ダンチク、ソクズ、ホナガイヌビユ、ヨシ、カナムグラ、クズ、セイタカアワダチソウ、アレチウリ、コセンダングサ、スベリヒユ、ヨモギ、ハッカ、トゲチシャ、タチスズメノヒエ、アメリカスズメノヒエ、シロザ、オヒシバ、ヤブガラシ、ゲンノショウコ、アレチギシギシ、ヤブジラミ、エノコログサ
カニ：アカテガニ、クロベンケイ

昆虫：ヒメギス、オオカマキリ、オンブバッタ、マルカメムシ

(湯浅 幸子)

「千石荘の昆虫採集」

日時：2003年7月13日(日) 10:00～12:00

場所：千石荘

今年も、講師の竹本卓哉先生をむかえて「千

石荘の昆虫採集」が行われました。参加者は66名。竹本先生からクワガタムシやカブトムシ探しのポイントを伝授された参加者のみなさんは次々と雑木林に消えていきました。秘訣の「ふわふわした足下」をスコップで一生懸命掘り返す人、クヌギの穴にひそむヒラタクワガタをねらう人…。小雨のぱらつくなか、日高向日葵さんが最初のカブトムシのオスを掘り当てると、みなさんの採集熱はますます盛り上がりました。

その後場所を変え、水田のまわりでトンボやササキリなどの採集をする班、雑木林で腐葉土掘りを続ける班、ネザサの密生したオオキンカメムシ・ポイントに挑戦する班に分けられました。千石荘はシナアブラギリの木がたくさん残っており、その若い実の汁を吸いに、南方から美しいオオキンカメムシがやってくると思われている場所なのです。

最後に、捕まえた昆虫を竹本さんにみていただきながら発表し、雨が強くなってきたので早めに会を終わりました。

以下の動植物を確認することができましたので掲載します。

(昆虫類) 49種類

<半翅目> ナガメ、マルカメムシ、オオツマキヘリカメムシ、ホシハラビロヘリカメムシ、アブラゼミ、ベッコウハゴロモ、ホシアワフキ<甲虫目> ヒラタクワガタ、コクワガタ、

カブトムシ、カナブン、ゴモクムシ、セアカ
ゴミムシ、キマワリ、クチキムシ、オオユミア
シゴミムシダマシ、オジロアシナガゾウムシ、



シャチホコガの幼虫

ヨツボシケシキ
スイ、マメコガ
ネ<鱗翅目>ア
オスジアゲハ、
ツバメシジミ、
ベニシジミ、モ
ンシロチョウ、
キチョウ、キタ
テハ、ヒメウラ
ナミジャノメ、
ジャノメチョウ、
イチモンジセセ

リ、ダイミョウセセリ、クロヒカゲ、ヒカゲチ
ョウ、ホシホウジャク、シャチホコガの幼虫、
シャクガの一種の幼虫、アケビコノハの幼虫
<直翅目>ササキリ、ウスイロササキリ、シ
ョウリョウバッタ、ヒシバッタ、クビキリギ
ス、ヒメギス、エンマコオロギの幼虫<蜻蛉
目>アオモンイトトンボ、モノサシトンボ、
キイトトンボ、ウスバキトンボ<螞蟓目>オ
オカマキリ、ハラビロカマキリ、チョウセン
カマキリ

(両生類) 3種類：ニホンアマガエル、ヌマ
ガエル、ウシガエル

(鳥類) 11種類：アオサギ、コサギ、コゲラ、
ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス(古巣も)、エナ
ガ、カワラヒワ、スズメ、ホトトギス、ウ

(植物) 26種類：トチノキ、シナアブラギ
リ、コマツナギ、エノキグサ、アオツヅラフジ、
トウバナ、ツユクサ、ススキ、ヒメジョオン、
ヘクソカズラ、ノブドウ、ネコハギ、アケビ、
タンキリマメ、セイタカアワダチソウ、シマ

スズメノヒエ、クサイ、クズ、オオバコ、イ
ヌビワ、コセンダングサ、イヌタデ、カキネ
ガラシ、ナワシロイチゴ、カナムグラ、トキ
ワハゼ

(湯浅 幸子・西澤 真樹子)

親子で学ぼう河川見学会

日時：2003年7月24日(木)

場所：近木川畑橋周辺

大阪府の河川愛護月間である7月の24日
に、大阪府河川室に協力する形で、近木川畑
橋周辺(木積)において、河川見学会を行いま
した。府下各地から親子50名の参加があ
りました。今年は梅雨明けが遅れて、天候が
怪しかったのですが、当日は晴れ間も見え、
事なきを得ました。11日の下見の時には、
水がやや濁っていて少し足にまとわりつく
感じがあったのですが、本番前の雨で水量が
増し、水の濁りもほとんどなく、かなりサラ
サラの水が流れていました。

南海岸和田駅を12:45に出発し、バスの
中で、河川室のスタッフや当館の山田から貝
塚や近木川の生きものの説明を受け、13:
30に現地に着、水生昆虫の種類と採集方
法、CODの簡易測定法、もんどり(魚を採
る仕掛け)の説明を受けた後(というか、そ
れが終わる前から)、子供たちは川の中へ入
って行きました。



途中、「これは何ですか」と捕まえた魚や水生昆虫を見せられ、その対応に追われっぱなしでした。水生昆虫を「網で」採る方法を解説したのに、中には、水中へ手を伸ばし小さな幼虫を捕える子がいて、それが幼虫をつぶさずに素早く行われるので、たいへん感心させられるということもありました。また、子供たちの中には、水生昆虫の名前を教えたはしから吸収していく子がいて、「詰め込み」ではないですが、子供たちの頭の柔軟さも感じさせられました。

採集された水生昆虫の主なものは、コオニヤンマ、コヤマトンボ、キイロカワカゲロウ、ニンギョウトビケラなどでした。特に、ニンギョウトビケラの多さは、これまでの近木川の他の場所での採集では見られないものでした。水生動物は、カジカガエル、ツチガエル、カワヨシノボリ（石の裏面に産み付けられた卵塊が多数）、カワムツ、サワガニ、ミナミヌマエビなどが採集されました。付表には下見に行った7月11日および同所で8月1日に行った貝塚市教育委員会の新任教員講習時のデータも示しました。

後ろ髪を引かれるように川から上がった子供たちに採集物の解説をした後、バスで自然遊学館へ向かい、当館の白木から館内の展

示と「トンボの池」の解説を受けて、行事は無事終了となりました。

付表. 畑橋で確認された水生昆虫および水生動物(2003年)
(同定:水生昆虫、岩崎拓、水生動物、山田浩二)

	種名	7月11日	7月24日	8月1日
カゲロウ目	ヒラタカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ		○
	トビイロカゲロウ科	ヒメトビイロカゲロウ属		○
	マダラカゲロウ科	アカマダラカゲロウ		○
	カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ	○	○
	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ		○
トンボ目	カワトンボ科	ハグロトンボ		○
	サナエトンボ科	コオニヤンマ	○	○
		ダビドサナエ	○	
		ヒメサナエ		○
		オナガサナエ		○
エソトンボ科	コヤマトンボ		○	
カワゲラ目	オナシカワゲラ科	フサオナシカワゲラ属	○	○
カメムシ目	アメンボ科	シマアメンボ	○	○
トビケラ目	ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ	○	○
	シマトビケラ科	シマトビケラ属		○
		コガタシマトビケラ属		○
コウチュウ目	エグリトビケラ科	ニンギョウトビケラ	○	○
	ヒラタドロムシ科	マルヒラタドロムシ属	○	○
ハエ目	ガガンボ科	Tipula属	○	○
	ユスリカ科	gen. et spp.	○	○
	ブユ科	gen. et spp.		○
両生類	カジカガエル		○	○
	ツチガエル			○
魚類	カワムツ		○	○
	オイカワ			○
	カワヨシノボリ		○	○
甲殻類	サワガニ		○	○
	モクズガニ		○	
	ミナミヌマエビ		○	○
	ミズムシ			○
貝類	マシジミ		○	○
	カワニナ			○
ヒル類	イシビル科の一種		○	○

(岩崎 拓)

満月の夜の海探検

日時：2003年8月10日（日）

場所：二色浜

大阪市立自然史博物館との共同開催で、行事「満月の夜の海探検」が行われました。遊学館と博物館を合わせた参加者は129名。遊学館でも最大の行事になりました。

自然史博物館の学芸員と、自然遊学館のスタッフで8班にわかれ、夜を待ちながらテングサやアナアオサの打ち上げられた二色

浜を探索したり、近木川河口や浜で投網の練習をしました。

午後 6 時半。台風一過のすばらしい夕焼けを楽しんだあと、講師の鍋島さんが突堤のあちこちに前夜から仕掛けておいた“カニかご”を引き上げ、中を調べていきます。イシガニやイトマキヒトデがたくさん入った班、マアナゴがとれた班、イシガニをマダコが食べてしまい“タコかご”になっていた班など、各班それぞれの獲物を手に盛り上がりました。

すっかり日が暮れてからは、ライトを海に向け、集まってくる生きものを捕らえる灯火採集をしました。プランクトンネットを使って海水をすくい取りバケツに開けると、カニの幼生やトビウオの稚魚が見られ、水の動きに合わせて夜光虫がきらきらと光る様子が観察できました。



灯火採集の様子

灯火採集を待つあいだ、浜では投網の得意な講師や参加者が 60cm 以上もあるスズキを捕らえ、拍手喝采を浴びていました。

各班ごとの収穫物と、当日観察できた生き物は以下のとおりです。各班ごとに、見られた生きものが違うところに注目。どの専門家が班についていたか、目に見えるようす

ね。

■波戸岡班：クサフグ、ボラ、クロダイ、カニ（河口での投網）、アミメハギ、コモンフグ、アサヒアナハゼ、イシガニ（カニかご）、ボラ、スズキ、コノシロ、コモンフグ（浜での投網）

■鍋島班：カニのゾエア、ケンミジンコの一種、ヨコエビ、モバヨコエビ、エビのミシス、イトマキヒトデ、アミメハギ、コショウダイ、クロハギ

■天満班：クサフグ、ボラの稚魚、アシハラガニ（河口での投網）、マアナゴ、クサフグ、マダコ、タコに捕食されたいいイシガニの甲羅（カニかご）、スズキ、アサリ（浜での投網）

■山西班：ムラサキイガイ、カキ、オニアサリ、クチベニガイ、サルボウ、イタヤガイ、コシダカガンガラの子ども、ボラ、タテジマフジツボ、イソミミズ、ケラ、モバヨコエビ、イシダタミガイ（海岸）イシガニ、ムシロガイ（カニかご）、イソギンポ、夜光虫（ライトトラップ&プランクトンネット）

■渡部班：ケフサイソガニ、イシガニ、クロベンケイガニ、ミズクラゲ（河口）、アミメハギ、クサフグ、イトマキヒトデ、アラムシロガイ、ヤドカリの一種（カニかご）、カニのメガロパ、ホソアオトビ稚魚、イカ、不明の稚魚 2 種、夜光虫（ライトトラップ&プランクトンネット）

■花岡班：カクベンケイガニ、イシダタミガイ、カキ、タマキビガイ、ウズラタマキビガイ、クサフグ、フナムシ（海岸）、クサフグ（投網）、イトマキヒトデ、キヒトデ（カニかご）、ヨコエビ、ホソアオトビ稚魚？、ボラ、不明の幼魚（ライトトラップ&プランクトンネット）

■山田班：イタボヤ、ハスノハカシパン、イトマキヒトデ、“砂茶碗”ことツメタガイの卵、“ナギナタホオズキ”ことアカニシの卵、アサリ、オニアサリ、クチベニガイ、チリボタン、ホトトギスガイ、ムラサキイガイ、イソミミズ、イシガニ、ガザミ、ヨコエビ(海岸)、イシガニの稚ガニ(投網)、マダコひ、クサフグ(カニかご)、カニのメガロパ幼生、ケンミジンコの一種、夜光虫(プランクトンネット)

■村井班：マダコ、イシガニ、イトマキヒトデ(カニかご)、夜光虫(プランクトンネット)、スズキ(浜での投網)



トビウオ(ホソアオトビ)の稚魚。同定：鍋島靖信

(西澤 真樹子)

近木川河口の生きもの観察会

日時：2003年9月6日(土)

場所：近木川河口

毎年この時期に恒例の行事ですが、今年の残暑は強烈でこの日もまぶしい太陽の下での一日でした。

午前中は潮のよく引いた河口左岸の海に面した干潟に降り立ちました。ここはレキの多く混じった干潟ですが、今年は沖に行くに

従って砂が積もっていました。この場所の干潟地形は刻々と変化しており、毎年違った表情を見せてくれます。参加者の方々は潮だまりや波打ち際で魚を捕まえたり、レキの下に隠れたケフサイソガニ、ヒライソガニ、ユビナガホンヤドカリなどを見つけたりしていました。また、じっと干潟でたたずむことで、ぬかるんだ場所にあいた穴からヤマトオサガニが姿をあらわし活動する様子や、落ち葉などのクズで作られた煙突状の構造物(スゴカイイソメの棲管)が観察できました。



湾岸高速道路の高架下にできた日陰で昼食をとり、午後からは河口より少しかみにあるヨシ原に移動しました。ハクセンシオマネキやイセウキヤガラの生息環境を観察した後、ヨシ原に巣穴をもつイワガニ類をタクアンで釣る「カニ釣り」に挑みました。今回あまり釣れませんでした。結果を以下に記します。

クロベンケイガニ

Chiromantes dehaani

No.	採集者	甲幅(mm)	♂、♀
1	藤井寧	30	♂
2	藤井寧	23	♂
3	日高学	22	♂
4	酒井陽子	20	♂

ハマガニ

Chasmagnathus convexus

No.	採集者	甲幅(mm)	♂、♀
1	酒井理紗子	48	♂
2	岡田真太郎	40	♀
2	喜多悠香	40	♂
3	日高向日葵	35	♂
3	高野晴一郎	35	♂
4	白木江都子	33	♂
5	酒井理紗子	30	♂
5	酒井理紗子	30	♂

(山田 浩二)

博物館実習を終えて

期間：2003年9月3日～9月8日

実習初日、自然遊学館には初めて来ました。インターネットを見て、どんなところかはだいたい想像はしていましたが、博物館にしては小さい所だな、というのが第一印象でした。しかし、貝塚にいる生き物をテーマとしており、とても身近な昆虫、魚が多く展示していて、親しみやすい博物館だと思いました。不安と緊張でいっぱいの一日目は、魚などのエサやり、スズムシなどの虫かごへの水やり、カニの水槽の掃除などをやらせていただきました。魚のエサやりなど、小学生の時以来だったのでとても懐かしく、楽しかったです。自然遊学館のみなさんは、とても親切で、丁寧にいろいろ教えてくださり緊張もすぐに和らぎました。

実習二日目は、こどもエコクラブの活動と一緒に参加させていただきました。田んぼ周辺の生き物調査で、子供達が網を持って走り

回り楽しんでいるのを見て驚きました。私の住んでいる所は本当に田舎なのですが、最近では田んぼなどで虫とりをしている子供はほとんどいません。こちらの子供達の方が、生き物や自然に対しての興味を強く持っているのではないかと感じました。また、そのような興味をひきだしているのが、博物館なのだと思います。

実習四日目、私も楽しみにしていた近木川河口観察会でした。近木川河口でのカニ、貝探しでは、大人も子供も一緒にドロだらけになりながら一生懸命探している姿が印象的でした。親子でこのような体験ができるということはとてもいいことだと思います。子供達の笑顔を見て、私も自然と笑顔が出てきました。カニ釣りでは、みんな、たくあんをカニがつかむのをじっと見つめ、真剣でした。私はカニをうまく釣れませんでした。カニ釣りは初めてだったので、とても楽しめました。

たった六日間の実習でしたが、自然遊学館は地域との関わりが深く、子供達との交流がたくさんあり、とてもいい博物館だと強く感じました。また、博物館での仕事の楽しさや大変さを、ほんの一部だとは思いますが、経験できたと思います。このようないい実習ができて、本当に博物館での仕事は魅力的だと思いました。自然遊学館のみなさん、お忙しい中、実習をさせていただきありがとうございました。いろいろなお話を聞かせていただけて、とても嬉しく思っています。本当にありがとうございました。



(近畿大学農学部 3 回生 堀田 賀代子)

ご挨拶

これまで、遊学館で働いて参りましたが、この7月から(財)大阪府公園協会箕面公園昆虫館の嘱託職員となりました。今では昆虫採集の講師や衛生害虫の講師をしたり、シニア大学の講師をしたり、チョウの飼育や老若男女の質問に答える日々を送っています。最近の質問では、「スズメバチに子どもが刺されたのですが、大丈夫でしょうか?」とか、「クワガタ・カブトを飼育していますが、どのようにしたらいいのですか?」とか、「アゲハチョウの幼虫を救助してください!」など色々ありました。中でもおもしろかったのは、「松尾芭蕉の有名な句『閑けさや 岩にしみいる 蟬の声』のセミは何ですか?」という質問でした。芭蕉がこの句を詠んだのは、山形県立石寺で、旧暦の5月27日(新暦では7月13日)でした。今までにこのセミは、ニイニゼミ(斎藤茂吉)とする説とヒグラシ(小宮豊隆)とする説の論争が有名です。結局は松尾芭蕉が訪れた日に調査をした結果、ニイニゼミと考えられています。遊学

館でも昆虫やほかの生物に関する質問は多かったですが、昆虫館は昆虫が専門、という認識があるのでしょうか、昆虫やその他のカタツムリやヤスデなどの質問も多いのです。

最近では10周年記念冊子の作成で来ていましたが、作業がなかなか進まず遊学館のみなさんにご迷惑をおかけしたと思います(特に岩崎さん!)。私たちの血と汗と涙とよだれの結晶を是非ご覧下さい。

さてこれからは、遊学館で経験した事を活かして、昆虫館でも勉強しつつ精進していきたいと思います。また、出来る限りの遊学館のサポートも微力ながらさせていただこうと思いますので、よろしくお願い致します。最後に、宣伝になりますが、箕面は遠いけどまた遊びに来てください。箕面昆虫館のパンフレットやイベント情報など遊学館に置かせていただきますので、ご参考にしてください。それでは。また来ます。

(澤田 義弘)

遊学館の図書が使いやすくなりました!

自然遊学館では、自然や生きものに関する本や図鑑を用意しています。今回、「図書が利用しにくい」という利用者の声を受けて、多目的室の図書を、海や水辺の生きもの・鳥・ほ乳類・両生類・爬虫類・昆虫などに分類し、使いやすくなるように整理作業を行っています。また、いまでは絶版になってしまった科学雑誌なども手に取って楽しめるようになりました。調べ物のできる身近な図書室として、遊学館をどうぞご利用下さい。

(西澤真樹子)

★自然遊学館スタッフの日記より★

自然遊学館で起きたいろいろな出来事をトピックスでお伝えします。

8月7日(木) 近木川河口で私のお気に入りの鳥、ソリハシシギが観察できました。(宮本)

8月14日(木) ヤモリが脱皮しました!



上の写真は、皮がむけはじめ、日焼け後のお肌のようにになっているヤモリです。(西澤)

9月22日(金) 水生昆虫の同定とアクリル封入標本の作製に協力をしていただいている森本静子さんが、安威川上流で採集されたヒラタドロムシ属の幼虫を持参してくれました。腹部腹面の鰓が6対あり、近木川と津田川で採集されている鰓が4対のマルヒラタドロムシ属(前号参照)とは腹部腹面の模様も異なるものでした。ヒラタドロムシ属が近木川と津田川で採集されていないことが確認できました。近木川の水生昆虫シリーズは今回は休刊にしました。(岩崎)

10月2日(木)

ヤモリの赤ちゃん2匹誕生!7月24日にケージの中に産みつけられている卵を見つけ、ワクワクしながら待っていたものです。生まれたての体長は4cmほどです。産卵からふ化まで、71日間かかりました。

赤ちゃんヤモリの飼育は難しいので、親が捕れたところに帰すことにします。(西澤)



10周年特別展「10年の足跡」開催中

日時: 2003年9月13日~10月26日

場所: 関空交流館

自然遊学館は今年の10月で、創館10周年を迎えます。この10年間に、和泉葛城山から二色の浜まで貝塚市内の多様な自然に親しんでもらうために行ってきた数々の行事を写真で振り返ります。ぜひ、お立ち寄りください。



自然遊学館だより 2003 秋号 (No.29)

発行日 2003.10.2

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 0724(31)8457

Fax. 0724(31)8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.osaka.jp

<http://www.city.kaizuka.osaka.jp/shizen/index.htm>